

総務建設経済常任委員会 視察研修報告

- ◆日時：令和元年5月16日（木）13時30分～16時00分
- ◆視察先：栃木県宇都宮市（視察依頼先は宇都宮商工会議所）
- ◆参加者：①総務建設経済常任委員（二宮委員長、根岸委員、杉崎委員、善波委員、羽根委員、大沼委員）並びに野地議長
②その他議員（渡辺議員、小笠原議員、露木議員、前田議員）
③行政職員（椎野都市部長、宮嶋企画政策課長）
④議会事務局随員職員（二見議会事務局長）
- ◆視察事項：宇都宮ブランド、オープンカフェ、市民参加型イベント等による地域活性化の取り組みについて
- ◆視察対応者：ユニオン通り商店街理事長 檜山昌彦氏、同副理事長 大川謙三氏、理事会計寺西大司氏、前理事長 松本宗樹氏、オリオン通り商店街NPO法人宇都宮まちづくり推進機構事務局長 田辺義博氏、企画マネージャー 清嶋眞知子氏、宇都宮商工会議所中小企業相談所 地域振興部次長 長谷眞氏、経営指導員 川村成仁氏、宇都宮市広報広聴課職員

◆研修内容

【説明】

- ・ユニオン通り商店街概要：商店街店舗数約100店舗中、70店舗が加盟している。
- ・事業主だけでなく従業員も会員活動を行なっているため年に一度行われる新年会は各飲食店店舗の商品を持ち寄り60名程度の参加で賑わっている。また、商店街として年3回のフリーマーケットを開催しており1万人程度の動員実績である。その他、年末の福引セールが行われている。
- ・通路は以前、車両の通行規制が行われていたことがあったが現在では朝の通学時以外は規制をしていない。電線は地中化されている。

【質疑応答】

Q：ホットステーションの利用方法は？

A：地域交流のためトイレの利用なども含め解放している、多くは学生の利用が多く学校帰りに立ち寄ったり、昼間は買い物客の休憩所として利用されている。以前含め14年継続しており行政からの支援を受け運営している。2台の監視カメラにより安全を監視し、トイレの清掃なども持ち回りで施設の保全をしている。

Q：カメラは借りているのか。

A：商店街で購入設置している

Q：維持管理の費用面はどうなっているのか。

A：この施設維持のために年間 140 万円程度行政の補助を受け、できるだけ手作りで経費の軽減を図っている。

Q：ホットステーションは各商店街が持っているか。

A：ユニオン通り独自であるが他の商店街でも形態は違いながら其々運用している

Q：若い事業者が多いが、世代交代は。

A：お年寄りの買い回り品が主だったのが、25 年ほど前に 1 店の古着店が火付け役となり、現在は若い商店事業者主体のまちづくりとなっている。旧来の生活用品店舗はほぼ無く、飲食店が多くなっている。

Q：家賃が低い中で所有者に不安は。

A：成功している店舗は多店舗展開もしており空き店舗は少ない。家賃が安いところも若者の開業を容易にしている。

Q：インターネットでの集客があるのか。

A：特色ある店舗が多いために目指して来店する方が多い、客層は 20～30 代中心で経営者は若いエネルギーで常に新鮮さを作り出している。

Q：開業者はどこから来ているか。

A：県内からの開業者が多い

Q：開業相談やサポートはしているのか。

A：以前はスタンプカードなどを行っていたが現在ではフリーマーケットの開催などで来店客を誘引している。ホームページでの周知、年末の福引で積極的に集客やクーポンの発行で購買意欲を増進している。以前は市の取り組みで家賃補助もあったが効果が薄く現在では新店舗への開業補助として 40%を補助している

Q：会費はどうなっているのか。

A：会費は大家 2000 円/月、商店主 4000 円/月としている。

Q：転換期以前の商店街は。

A：生活用品の販売が多かったが商店街は衰退しつつあった

Q：商店街の高齢化をどう見ているか。

A：高齢化によって廃業する店舗もあるが、賃貸需要と成功事例があり廃業後は貸店舗にする方々が多い

【行政の取組み事項 宇都宮市広報広聴課職員による説明】

- ・ブランド戦略シティプロモーションで「住めば愉快だ宇都宮」をブランドメッセージにして各商店街が「○○○愉快だ宇都宮」と自由に使えるロゴマークに仕立てた。
- ・永く住み続けていただく事と、他所から移住して頂けるまちづくりを進めている。
- ・水が美味しい、食べ物も美味しい、都市全体の魅力を伝える
- ・住みやすい街づくり、トカイナカ（都会で田舎）
- ・宇都宮市民にまず理解してもらうためにアンテナショップ（宮カフェ）を市内に作り、市の魅力を発信している。
- ・メディア獲得にも力を入れている。移住を促進するためにダブルプレイスの取り組みを行い、市街地の方から見た宇都宮のイメージを広報し在住者にも取材をし宇都宮の良さを発信している。宇都宮市民シティプロモーションでは宇都宮の風景を使ったプロモーションビデオ作成に補助金にて活動を支えている。

○商工会議所と行政の関わりについて

宇都宮市は東京へ 100km 程度、東北道、北関東自動車道、などが接続しており、交通便に恵まれている。現市長は元商工会議所会員で 50 代と若く、現在まで 4 期をこなしており、商工会議所との連携が密である。総予算 12 億のうち 4 億程度を補助金で賄っている。市より 1200 万円、県より 1 億円、国より 2 億 8 千万円となるが個々の事業で市からの補助は別に受けている。商工会議所内で 10 の部会 6 委員会で意見要望を取り入れ、市へ要望を出している。41 名職員の 3 名の常勤役員、県、市、一般からの登用をしている。

○オープンカフェ事業について

オリオン通り商店街の店舗前を道路占有し希望店舗にテーブル、イス、パラソルを貸し出している。都市再整備計画によりこれを可能とした午前 11 時から 0 時までの利用のために軽量で簡易に出し入れできるものになっている。飲食店の食事スペースとしても利用ができるよう配慮している。また、アーケード内は自転車を降りて押しチャリの推進を啓発し周知している。

以上

（記録作成：大沼英樹）

◆常任委員会として振り返り

- ・宇都宮は貸店舗制度が成り立っているから後継者が出てくるのではないか。
- ・購買がない。自然淘汰される。高齢者にとっては買い物難民になる。
- ・二宮は住居と一緒にいるので、トイレがない、入口が無いなどあって住みにくくなるので、町の補助金でも出れば改修して貸店舗になる余地があるかもしれない。
- ・二宮町では、商店街がいくつかに分かれていて、それなりにうまくいっていたが、ひとつになって動く感じにならない。それぞれ抱える問題が異なる。例えば、吾妻山をどうしようとか、それで商店が潤うような策を考えたほうが良い。

- ・高齢化で、店舗の見てくれは衰退しているようでも、営業で納めている品で稼げている事業者もある。
- ・大きいテーマひとつに絞るべきではないか。

(例) 吾妻山の動く歩道、彫刻オブジェで芸術祭、花見山、恋人たちの吾妻山にして愛の鐘でインスタ映え、二宮物語、聖地化、駅にピアノを置く、山西小の方面から道路整備して救急車や障がい者や高齢者やマスコミにも対応。W I - F I でコミュニケーション。今ある資源に付加価値をつけて楽しい町の魅力発信。テーマは“観光”～産業振興を観光で盛り上げる。